ISSN 1882-9953

NPO法人 大学図書館支援機構

IAAL
Institute for Assistance of Academic Libraries
ニュースレター
アイアールニュースレター

【特集】
これからの目録規則：RDA

APR. 2013 No.12

これからの大学図書館員に期待される役割

慶應義塾大学　井下　理

読書とは，人間行動のひとつであり，読み手と図書から成立する。図書だけがあっても読む人がいなければ読書は成立しない。と同時に，人がいても書籍がないと読めない。両方がそろわないと読書は成立しない。至極当然のことだが，図書館は，図書が大量にあってそれが館内に収められていれば成立するが，来館者がいて初めて成立するのが図書館利用行動であり，読書行動である。

同じように，図書館の中に学習支援のための空間が設けられても，また，集団で学習するための集団学習室が開設されても，それを利用する人々がいないと，宝の持ち腐れとなりかねない。

図書というモノや学習空間という設備の充実が，すぐに学生の読書行動や学習行動を誘発するわけではない。そこに図書館員に期待される専門的なサービスや教員に期待される役割が存在する。学生を読書へと向かわせる課題を出すのが教員の役割なら，来館した学生に読書や資料収集，そしてレポート作成などの支援とその動機づけを行うのは，最前線にいる図書館員の役割である。

教育という営みは，教える人と教わる人が，教える内容をめぐり，教えたいことと学びたいことを相互に伝えて，共に波長を合わせ，初めて成立する。教える人だけが熱心でも教わる人が「心ここにあらず」では，学習の成果は上がらない。一方，学びたいという熱意ある学生がいても，熱心に教えることをしない教員のもとでは，学習意欲は徐々に冷めてしまう。

図書館においても，来館者がいなかったり，貸出サービスが利用されなかったりしたのでは，せっかくの選書行動・保存活動の成果である大量の蔵書資料が保管されたままとなる。「お蔵入り」してしまう。図書館の蔵書数が多くても，読み手がいなければ読書行動が成り立たないように，教室がいくら立派でも学ぶ人や教える人の心がそこになければ，真の意味で教育(学習)は，成り立ちにくい。「主体的な学修」への関心が改めて高まりつつある現在，主体的な読書は主体的学習の根幹を成す。大学進学の目的意識や学習意欲の薄い学生たちは，卒業に必要な単位取得のために教室に現れるが，授業時間が終わり，教室から解放された途端，図書館に立ち寄ることもなく帰路に就く。本来なら彼らの中にも潜在する「知への渇望」すなわち学習への関心は，顕在化されぬままに卒業してしまうことも多い。

しかし，埋もれていた学びへの意欲が外からの適切な形で刺激を受けると，それまでの受動的な姿勢は一変する。主体的かつ能動的な学習が発動する。そのきっかけを豊かに内在させている「場」が，大学図書館ではないだろうか。学生の学習意欲を喚起し，学習行動を支えるのは，物理的空間や大量の蔵書そのものではない。学生の主体的読書と図書館での学習行動を見守りつつ，学生たちのすぐそばにいる図書館員ではないだろうか。

RDA講習会を開催

第1回RDA講習会を，平成24年12月15日と平成25年1月26日の2回にわたり開催しました。これは，12月開催の回への応募が，またたく間に90名の定員に達したため，急遽追加開催したもので，2回目の開催もすぐさま定員60名の応募がありました。

第1回目は，「RDAはどのようなものか」というタイトルで，RDA理解のプロローグとなる解説を行いました。AACR2（英米目録規則）からRDAになぜ変わらなければならなかったのかの背景説明をはじめとし，RDA記述データのサンプルについて，RDAの構成について，FRBR（書誌レコードの機能要件）の概念モデルについてなどを分かりやすく紹介したものです。

アンケートによると，参加者の約59%は大学図書館関係者で，約27%が企業関係者となっていました。大半が目録業務に関わっている方々で，今後の目録規則の動向に強い関心を持っていることが伺えました。

いただいたコメントでも，「RDAがそれほど恐れるものではないと分かった」，「RDAについて全く知らなかったので，概要を知ることができてよかった」，「分かりやすくイメージがつかめたのでよかった」，「実体と属性のところが分からなかったが，『ノルウェイの森』の例で分かった」など好評でした。また，「目録がもっと閲覧業務を考えたものになっていることが嬉しかった」，「RDAで作成されたデータが充実してくると，図書館員によるレファレンスの必要性やその形も変わらなければならないと感じた」など，目録の世界にとどまらない影響の大きさを感じた方々もいらっしゃいました。

私たちが活用しているNACSIS-CATも，確実にこのRDAへの対応が必要となります。参加なさった皆さんも，その問題意識を強くもって熱心に受講していたと感じました。次回以降のRDA講習会にも参加したい（「都合がつけば」も含めて）という方が，約88%にも上っていることがそれを如実にあらわしていると思います。

東京以外での開催を望む声も多数いただいておりますが，まずは第2回（3月9日），第3回（5月11日）の「RDAをカタログーの視点で読む」の開催を成功させたいと考えています。IAALはこれからも，わが国におけるRDAの普及に何らかの役割を果たしたいと思います。

RDAを読んでみよう！

NPO法人　大学図書館支援機構
高野 真理子

IAALでは2012年12月から，カタロガーのためのRDA講習会を行っています。今，図書館の目録の世界はダイナミックな変革に直面していると言っていいでしょう。すでにLC他，世界各国の標準がRDA（Resource Description & Access）準拠になって，日本の図書館界だけは旧来の目録規則であるAACRのままという選択肢は，多分あり得ないと思われます。司書資格があれば，『英米目録規則』AACR，『日本目録規則』NCRの知識を持っていますが，目録規則が変われば，新たな知識が必要になってきます。これはカタロガーだけの問題ではなく，北米では最近はパブリックサービス系の図書館員向けのRDA研修も行われるようになってきていると聞きます。RDA Toolkitはトライアルで1か月間無料でアクセスすることが可能です。是非，トライしてみましょう。

ところが，いざRDAを開いてみるとこれまでの目録規則と勝手が違って，まず，どこに何が書いてあるのか分からない，FRBRの概念モデルの用語が出てくるが，何を意味しているのか分からない，日本語訳が欲しい！と感じると思われます。（実際私もそうでした。）IAALのRDA講習会では，日頃実際に目録を担当している目線で，これらをやさしく解説します。実は私自身はもう15年以上，目録の実務から離れているので，「カタロガーの目線」はIAALの蟹瀬智弘に任せ，私の今の職務のひとつであるNACSIS-CAT目録システム講習会の講師の目で，RDAを読み解いてみたいと思います。RDAを読むことで，NACSIS-CATが既に30年前にFRBRの本質を潜めていたことが見えてきました。これはすごい！です。

1. RDAはシステムを規定していない

まず最初に，目録規則とNACSIS-CATのコーディングマニュアル（以下，C.M.）の関係を考えてみましょう。一見，C.M.には入力例が書かれているので，これ自体が目録規則のように思われがちですが，随所に「AACR2の規則1.1B及び2.1Bに準拠する」といった記載がみられ，項目の末尾に「（→AACR2 1.1.C及び2.1Cの任意規程）」のような目録規則の適用が示されていることからも，これは総合目録データベースにデータを入力する際の，NACSIS-CATにおける，目録規則の適用細則と捉える方が相応しいでしょう。C.M.の冒頭，「このマニュアルについて」でもそのように解説されています。即ち，システ

ムに対して，具体的に入力する記述内容を示し，目録規則の適用箇所を指示したものなのです。では，NACSIS-CATで規定しているのは何なのか，といえば，『目録情報の基準』に示されたデータベース形成の基本原理にあたるものだと考えます。

一方，RDAはシステムを規定していません。もっぱら対象の捉え方（FRBRに基づく）と，各データ要素をどのように記録し，関連をどう記録するかということが書かれています。RDAでは，ISBDの区切り記号の採否も，MARC21フォーマットでの対応も，マッピングは示すけど，それらはデータベース作成機関のお好きなように，と言っているように思えます。

ということは，カード目録やMARCフォーマットの考え方にマッチしたAACR2より，データベースを念頭においたRDAの方が，NACSIS-CATには親和性があるように思えてきます。データベース化が先行し，そのデータ要素の記入方法は従来のカード目録の規則でしたが，やっと目録規則が追いついてきたと言ってもいいかも知れません。

2. Preferred Title って何？

それでは，少し中を読んでいきましょう。まず目次の構成がAACRとは随分異なるので，これまでの目録規則と同じようにRDAを読むことは困難です。そのためRDA講習会では，最初に目次構成の解説を行いました。RDAは，AACR2のように「第1部 記述」の中が，資料ごとに章立てされ，その章ごとに各エリアの記述方法が書かれている訳ではありません。目次構成を念頭におきつつ，ここではRDA Toolkitの検索機能を使って，興味のあるところを拾い読みしてみたいと思います。

まず，気になるのは「Title」でしょうか。「Title Proper」だと，本タイトルに限定されますね。それでも186件もヒットしてしまうのですが，Basicなところから見ていくと，2.3.2にTitle Properの説明があります。2.X.XはManifestation（体現形）とItem（個別資料）の属性についての章です。本タイトルというのは，こういうものだと言う説明は，あまり変わっていないように思われます。しかし，セクション2の5-6（著作と表現形の属性）の章では度々「preferred title」という言葉が出てきます。さて，これまでの目録規則にはこのような用語は見た覚えがありません。日本語に訳すと「望ましい書名?」,「好ましい書名?」優先席ならぬ「優先書名?」なのでしょか。

「preferred」でToolkitを検索すると440件もヒットします。「preferred title」だけでなく「preferred name」も頻出する用語です。もしかするとこれはNACSIS-CATの統一書名典拠，著者名典拠のHDNGのことを言っているのでは?と考えると，「preferred」の謎が解けてきました。『目録情報の基準』9.1統一書名典拠ファイルの位置づけには，「2.統一タイトル標目の形が統一されることによって，同一著作の集中が図られる。」とあり，NACSIS-CATでは既にWork著作単位でのレコードを作成し，そこでのタイトルや名前は，いわば「preferred」を判断して記述することになっていたのでした。Work（著作）やExpression（表現形）の単位で記録するという考え方自体がなかったMARCの世界では，大きな違いかも知れませんが，NACSIS-CATの世界からは，すんなりと理解ができるように思われます。

3. 転記の原則

RDAの特徴の1つは，AACR2のように図書館員しか知らないような略語を使わないということと，著者は3人までとか，情報源に表示されていても肩書き等は省略するといったルールも無くなるということです。これは，先程書いたWorkやExpressionのpreferred的なものと対照的に，Manifestationの記述においては，書かれている通りを記述すればよいのだと理解できます。

NACSIS-CATでは，C.M.1.1.2転記の原則にその事が書かれているはずなので見てみましょう。書誌レコード（RDAのManifestationにあたると想定される）では，TR, ED, PUB, VLYR, PTBLは目録システム用文字セットを用い，目録対象資料に表記されている文字種による，即ち転記の原則を適用するフィールドです。統一書名典拠レコードではHDNG, SF, SAFが転記の原則です。（NACSIS-CATのフィールド名は紙面の関係で注記しませんので，C.M.を参照してください。）もし，統一書名典拠レコードをRDAのWorkに対応して考えるなら，HDNGは「preferred」なのですが，NACSIS-CATではあくまで，どこかに表示されているという根拠を必要としているということなのでしょうか。

Manifestationは書かれている通り転記する原則なら，ゆくゆくは書影でも良い訳です。書影で足りてしまえば，これからのカタロガーの仕事は，情報源に表示されていることを忠実に転記することではなくなるでしょう。そして，むしろ「preferred title」「preferred name」のレコードとの関連付けが主な役割になってくるように思われます。電子化された情報源が対象の場合は，タイトルページのみでなく，すべてデジタル化されて検索対象にもなり得ます。カタロガーの仕事は転記の作業から解放され，内容からリンク先を判断する作業に変わっていくだろうと考えられます。

4. ファイルの種類は？

ここまで，「preferred」の謎解きから，RDAのWorkはNACSIS-CATの統一書名典拠に，Manifestationは書誌に対応するという仮説で考えてきました。また，Itemは所蔵レコードに該当するでしょう。RDAでは個人・家族・団体と，概念・物・出来事・場所という実体の属性についてもセクション3と4で説明しています。これらについては，FRADとFRSADも参照しないといけませんが，ここでは触れる余裕がないので，大まかに著者名典拠と件名典拠（NACSISにはない）にあたると考えましょう。そして，RDAの後半のセクション5～10（17～37章）は，それらの関連についての章になっています。

最初に1.でRDAはシステムを規定していないと書きましたが，これらはどのようなファイルの種類を想定しているのかが気になってきます。因に，NACSIS-CATの総合目

録データベースは，書誌ファイル，統一書名典拠ファイル，著者名典拠ファイル，タイトル変遷ファイル，所蔵ファイル，参加組織ファイルからなっています。その関連を示した図が「NACSIS-CATとは」という目録所在情報サービスの事業についてのサイトに置かれています。（図1）
http://www.nii.ac.jp/CAT-ILL/about_cat.pdf [2013.2.10アクセス]

RDAを実装するためのシナリオ "RDA Database Implementation Scenarios" が，0.1 Key Featuresの参照先に図解されていますので比べてみましょう。これはToolkitにログインしなくても下記のURLで見ることができます。（図2-1，2-2）
http://www.rda-jsc.org/docs/5editor2rev.pdf [2013.2.10アクセス]

この図には，NACSIS-CATで件名典拠ファイルがないのと同様に，概念・物・出来事・場所という実体のレコードをどう位置づけるのかが描かれていません。FRSAD（2010.6）に基づき，今後明確になってくるのかも知れません。

5. ファイル検索とリンク参照

（目録システム講習会テキスト第3講）

そもそも，RDAの目的は次のように書かれています。

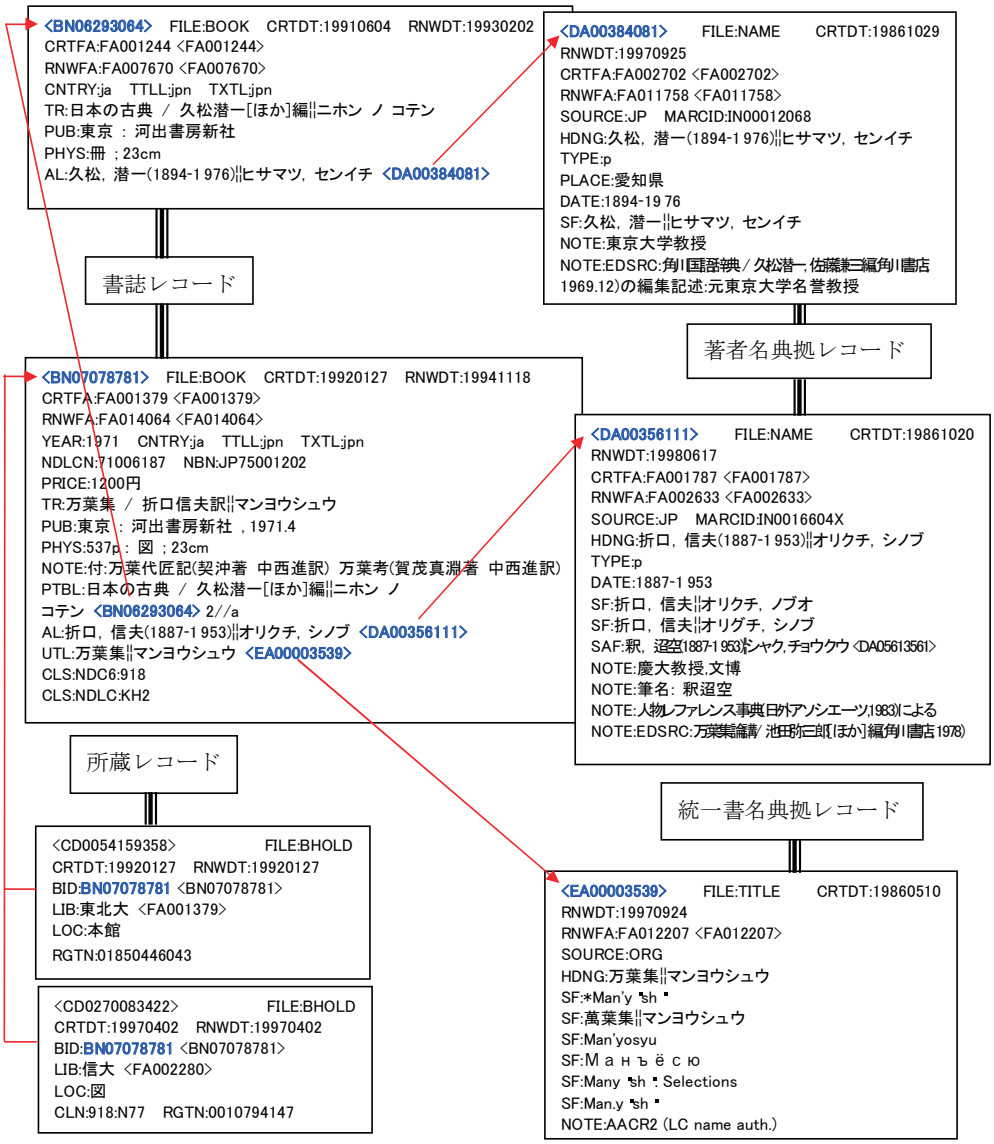
0. Introduction, 0.0 Purpose and Scope

"RDA provides a set of guidelines and instructions on formulating data to support resource discovery."

即ち，利用者がリソースを発見，識別，選択，入手することを支援するためのガイドラインだと謳っています。従って，当然RDA対応のシステムでは，アウトプットの方法としての検索システムも，それを活かすようになっている必要があります。

そこで気づくのが，NACSIS-CATの目録システム講習会テキスト第3講 2. 検索の種類の説明です。ここでは，目録システムの業務で使う検索は，ファイル検索とリンク参照があると書かれています。30年も前からこの仕組みがあったのです。（図3）
http://www.nii.ac.jp/nrd/jp/product/cat/text/webbuip/ttxt20123.pdf [2013.2.10アクセス]

利用者向けのインターフェースでも，WebcatからCiNii Booksになって，著者名典拠とのリンク検索も可能になり，



総合目録データベースのデータ構造　図1

（国立情報学研究所ホームページより）

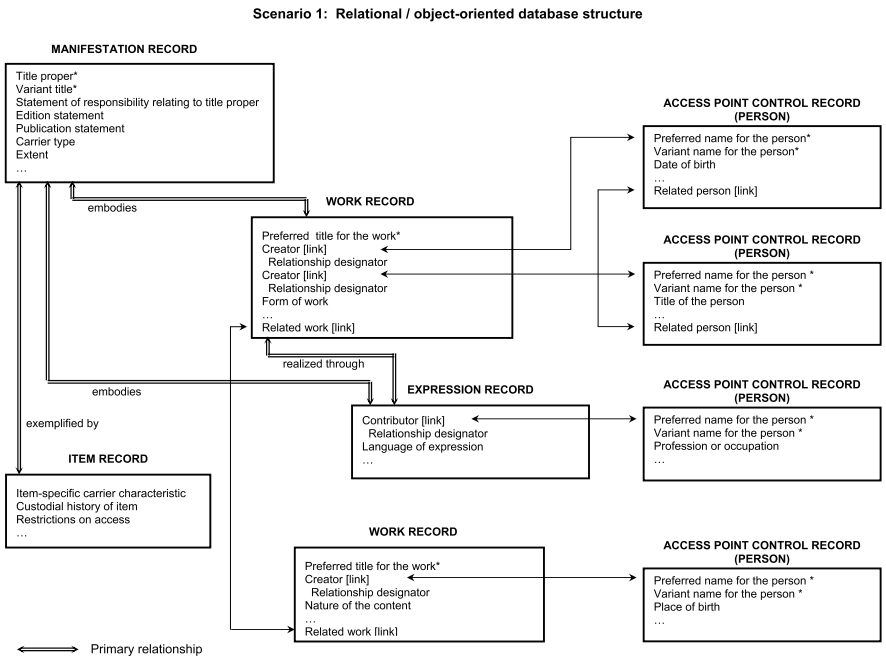


図2-1

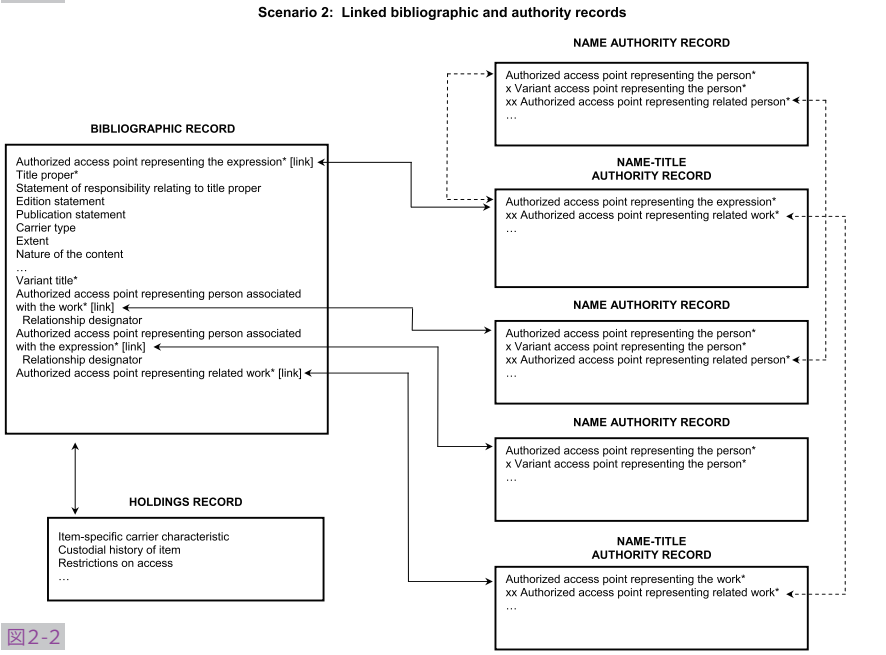


図2-2

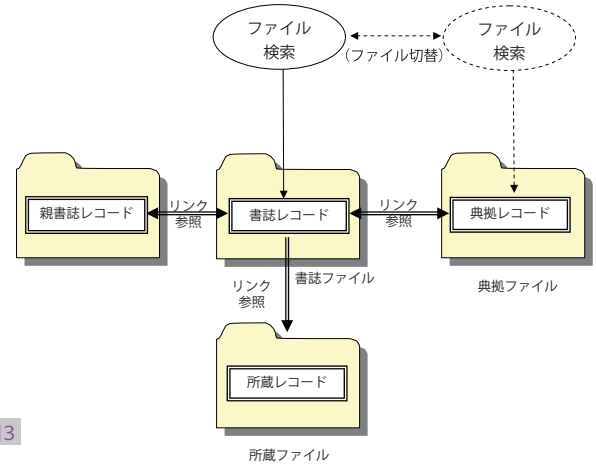


図3

（国立情報学研究所ホームページより）

リンクという点では目録システムの検索機能に近づいてきています。しかし，著者名典拠レコードとのリンクは任意なので，インプットのルールが変わらなければ，データ自体にリンクがなくて機能が活かせないというのが現状でしょう。また，統一書名典拠レコードとのリンク関係は更に限定的ですし，Webcatでは「統一タイトル」の表示がありましたが，CiNii Booksでは表示されなくなってしまいました。（例：http://ci.nii.ac.jp/ncid/BN01897906 [2013.2.10アクセス] UTLの「Arabian nights」は表示されない。）

IAAL理事のI氏から教えてもらった事例で，宮沢賢治の研究者で同姓同名の宮沢賢治という方がいるそうです。さて，作家の宮沢賢治ではなく，児童文学研究者の宮沢賢治氏の著作をどうしたら探せるか，ちょっとみんなで考えてみましょう。検索システムの機能が向上し，発見は容易になる中で，膨大な検索結果から識別，選択，入手することの解決法を，RDAでは識別特性を対応させること，「関連」即ちリンクで構成するのだと言っているように読み取ることができます。

6. さらにRDAを読んでみよう

RDAをレコードの種類と「関連」即ちリンク関係に注目し，NACSIS-CAT的見方で考えてみました。さらに面白い切り口は沢山あると思います。例えば，「関連」でキーになるのは，そのレコードを一意に識別するIDです。一意にということは，それぞれの作成単位がどう規定されているかに関わってくるので，図書においては書誌構造の問題や，固有のタイトルとみなさない場合の出版物理単位の表現，「版」か「刷」かといった永遠の課題について，RDAでどう書かれているか気になるところです。また，雑誌においては記述根拠号やタイトル変遷をどう扱うかがレコード作成単位のポイントです。そもそも，雑誌のWorkや，Expressionはどうとらえるのでしょうか？（Toolkitで検索する際は，Serialsと複数形でないとヒットしないので注意しましょう。）

また，RDAは様々な形態の資料に対応していると言われますが，これまでの資料種別とどこが違うのでしょうか。そして，なぜ変える必要があったのでしょうか。

そのような意識で事柄を整理しつつ，RDAをToolkitを使って読み解いていくと，面白い発見があるかも知れません。IAALではこれを研究としてではなく，実務に結びついた関心で皆さんに読んでもらいたいと思っています。

IAAL大学図書館業務実務能力認定試験

「総合目録 - 図書初級」第6回，「情報サービス-文献提供」第1回 実施報告

日 時 2012年11月4日（日） 14:00-14:50
（図書初級，文献提供 同時開催）

会 場 東京 – 機械振興会館
大阪 – 公益社団法人國民會館

出 題 マークシート方式・二者択一・100問
（図書初級，文献提供 共通）

	図書初級 第６回	文献提供 第１回
応募者数	176名（東京111名・大阪65名）	100名（東京69名・大阪31名）
受験者数	169名（東京106名・大阪63名）	97名（東京67名・大阪30名）
合格者数	77名（合格率45.6%）	35名（合格率36.1%）

図書初級 第６回

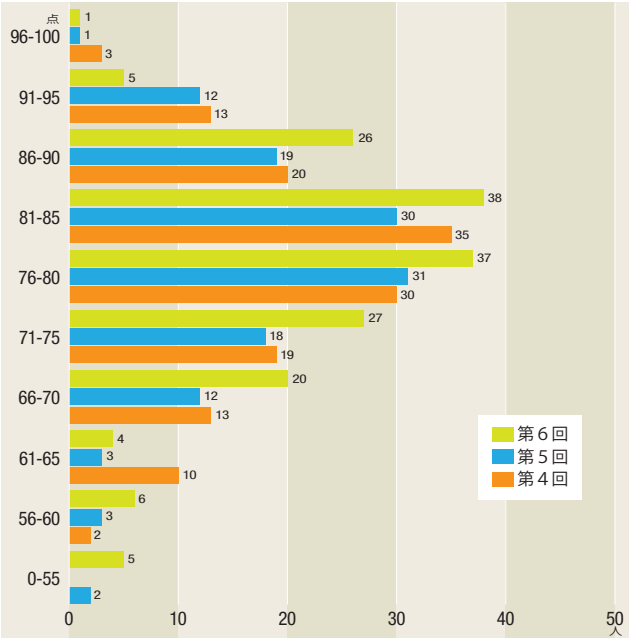
● 全体の得点分布（第４回～第６回）

「総合目録－図書初級」の試験も，今回で第6回を迎えました。第4回からの得点結果を見てみると，今回は僅かながら点数が低かったものの，概ね同じ水準の結果となりました。

以下に掲載している「問題の領域別正解率」から分かるように，この試験では5つの領域が設定され，毎回同じ数の問題がそこから出題されています。そして合格は80点以上ですので，合格するには各領域から満遍なく得点をとることが必要です。つまり，普段の業務ではあまり意識しないことかもしれませんが，NACSIS-CATや図書書誌レコードの概要，検索と図書書誌同定についての，正確でバランスのとれた知識が求められる試験と言えます。

試験問題の全体的なイメージが掴めない方，これから試験を受けてみようという方は，ぜひ「IAAL大学図書館業務実務能力認定試験問題集　2012年版」をご覧ください。この試験と同じ形式の100問と，その解説がまとめられた問題集ですので，日々の学習などにも役立つと思います。

	第４回	第５回	第６回
最高得点	96 点	98 点	96 点
平均点	79.2 点	79.8 点	77.3 点
得点中央点	80 点	80 点	79 点
標準偏差	9.05	8.28	9.29



各回とも，出題は100問。
1問1点で80点以上が「合格」です。

● 問題の領域別正解率

上でも書いたように，「総合目録－図書初級」の試験問題には5つの領域が設定されています。この枠組みと問題数は，第1回から変わっていません。

今回は「検索のしくみ」の得点が低い結果となりました。この領域は，NACSIS-CATのインデクス検索の特徴などを正確に理解できているかを問うものです。最近の様々な検索ツールは全文検索が可能なため，検索用インデクスの作成や検索キーの正規化などを意識する場面があまりないかもしれませんが，だからこそNACSIS-CATの検索のしくみを正確に把握し，検索もれが起こらないように注意しなければなりません。

また「実際の業務では，再検索が何度でもできる」，「＊（ア

領域	第６回	問題数
総合目録の概要	82.0%	30
各レコードの特徴	78.9%	15
検索のしくみ	68.2%	25
書誌同定	80.9%	10
総合	78.9%	20

スタリスク)」を付ければいい」とお思いの方もいるかもしれませんが，検索のしくみを知った上でそうするのと，やみくもに検索するのとでは大きく違います。普段何気なく行っているかもしれない検索について，「試験」というかたちで知識を再確認することは，非常に重要なことではないかと私たちは考えています。「検索のしくみを曖昧に捉えているかも。」と感じた方は，これまでのニュースレターに掲載された問題例，そして『問題集』で，検索のポイントについて再確認してみてください。

文献提供 第１回

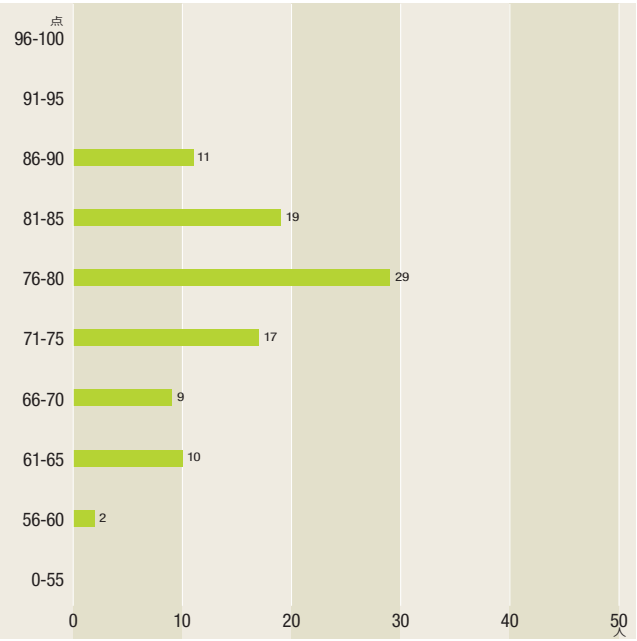
● 全体の得点分布（第１回）

第1回目の「情報サービス-文献提供」が開催され，97名が受験されました。

この試験は，前号の『IAALニュースレター　No.11』で紹介したとおり，情報サービス業務の中でも文献提供に焦点を当てた試験です。（次ページに「問題例集」として，この試験で出題された問題と解説を掲載していますので，具体的な内容はそちらをご覧ください。）

この試験も，「図書初級」と同様，80点以上を合格としています。グラフを見ると，76点から80点を獲得された方が最も多く，わずかに合格点に達しなかった方が多くいることが分かります。

受験者アンケートによると，受験の動機として最も多かったのは「自分の実力を知りたいから」（47.4%）でした。情報サービス業務と言っても，貸出・返却業務やILL業務のほか，利用者からの様々な質問に答えたり，寄せられた質問の答えを資料から導き出したりと，それは多岐に渡っています。また往々にして，絶対的な正解や調査の完了というものがなく，自分の探索が本当に正しく充分なのだろうかという不安がついてくるものです。この試験でその不安が全て解消されるわけではありませんが，目に見えにくい情報サービスの知識，スキルというものをある程度実感できる試験とも言えますので，興味のある方はぜひ次ページの問題例集を見て，次回の試験にトライしてみてください。



	第１回
最高得点	90 点
平均点	76.4 点
得点中央点	77 点
標準偏差	7.30

問題は100問。1問1点で，80点以上が「合格」です。

● 各領域ごとの平均点

この試験の問題は，「基礎」「応用」の区分を定めた「出題領域」と，「文献提供総論」「ILLシステム」など問いの趣旨による「課題領域」が，それぞれ設定されています。次の表は，各領域ごとに算出した平均点です。

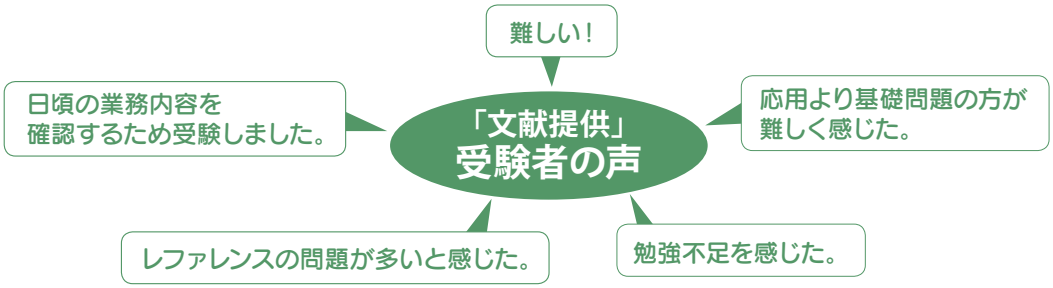
出題領域別平均点

	問題数	平均点
基礎問題	30	21.0 点
応用問題(基本辞書)	10	6.9 点
応用問題（図書）	25	21.4 点
応用問題（雑誌）	25	19.7 点
応用問題（テーマ）	10	7.4 点
合計	100	76.4 点

課題領域別平均点

	問題数	平均点
文献提供総論	17	13.1 点
書誌事項の解釈	10	8.8 点
文献探索	39	18.7 点
所蔵調査	20	5.7 点
ILL システム	14	10.6 点
合計	100	76.4 点

※領域の解説と，具体的な問題の内容は，次ページの問題例集をお読みください。



IAALのサイト内に，認定試験専用のページを設けています。認定試験のことについては，こちらのページをご覧下さい。

▶http://www.iaal.jp/IAAL_HPver5/index.html　IAAL　認定試験　検索

「情報サービス―文献提供」

問題例集 <抜粋>

『IAALニュースレター　No.11』の「新試験「情報サービス―文献提供」の実施について」，そして前ページで紹介したとおり，この試験は以下の表にある2種類の領域のもとに問題が構成されています。

今回の問題例集は，出題領域ごとに問題を掲載しています。また，問題文の末尾に，課題領域を明記しています。

■ 表1　出題領域

枠組み		出題内容
基礎問題		最新の文献提供に関わる用語や，データベース，ILLの基礎知識について。
応用問題	基本辞書	レファレンス業務に必要な，基本的な辞書・事典類を活用するための知識について。
	図書	図書（単行書のほか，学位論文や規格，法令・判例資料なども含みます）の書誌情報を読み解き，文献を的確に提供できる知識について。
	雑誌	雑誌（新聞なども含みます）の書誌情報を読み解き，文献を的確に提供できる知識について。
	テーマ	特定のテーマをもとに，それに関する文献を広く探索し提供できる知識について。

■ 表2　課題領域

領域		内容	出題根拠
I	文献提供総論	文献入手の仕組み，相互貸借の理念や運用，著作権などの文献提供に関わる基礎知識	国立情報学研究所のサイトにある http://www.nii.ac.jp/CAT-ILL/archive/illmanual/law.html「大学図書館における著作権問題Q&A」等 基本辞書の使い方
II	書誌事項の解釈	文献リストから文献種別の判定や書誌事項を読み取る能力	SIST 学術論文の書き方に関する資料 『相互利用マニュアル』（NPO 法人日本医学図書館協会）等
III	文献探索	文献種別に応じた入手法，文献データベースの知識・特徴と検索手法，サーチエンジンを通じた文献入手	雑誌記事，図書・雑誌，新聞記事，学位論文，統計（主に政府刊行物），規格，法令・判例等の各データベース オープンアクセス，機関リポジトリの検索方法
IV	所蔵調査	大学図書館およびその他国内の所蔵 海外の所蔵	NACSIS-CAT の検索（『目録情報の基準』『目録システム利用マニュアル』等），国立国会図書館の検索（NDL-OPAC, NDL サーチ，『国立国会図書館図書協力ハンドブック』），各サイトの利用マニュアル
V	ILLシステム	NACSIS-ILLの利用に関する問題	『ILL システム操作マニュアル』 『NACSIS-ILL システム講習会テキスト』

なお，今回ニュースレターに掲載する問題例集の解答・解説は，試験実施時点の内容に沿ったものです。データベースや情報サービスの内容は日進月歩の状況とも言えますので，学習の際には常に最新の情報をチェックし，様々な変化に対応できるよう心掛けておきましょう。

【基礎問題】

【1】

DOIとはデジタルオブジェクト識別子の略で，インターネット上で個別の論文や図書，図表等を識別するために，ユニークな番号として付与されるものである。

［文献探索］

【2】

SPARC JAPANとは，日本の学協会等が発行する学術論文誌を横断的に検索できるデータベースのことである。

［文献探索］

【3】

NACSIS-ILLの書誌検索において，タイトルに「学問のすすめ」と入力した場合と，「學問ノススメ」と入力した場合の検索結果は同じである。

［所蔵調査］

【応用問題－基本辞書】

【4】

『補訂版 国書総目録』とは，『古典籍総合目録』を増補した総合目録で，わが国の古典籍の所蔵情報を網羅的に収録している。

［文献提供総論］

【応用問題－図書】

（参考文献1）
岡伸一．社会保障ハンドブック．第4版，学文社，2012，211p.

【５】

参考文献1の著者が「岡伸一」1名である場合，図書館における複写が行えるのは各章の半分以下までである。

［文献提供総論］

【６】

参考文献1の資料をNACSIS-ILLで書誌検索する場合，タイトルの検索キーとして「社会保障」は正しい検索キーである。

［所蔵調査］

（参考文献2）
Frenkel, D.; Smit, B. Understanding Molecular Simulation: From Algorithms to Applications. 2nd ed., Academic Press, 2002, 664p.

【７】

参考文献2について，著者は「Frenkel, D.」と「Smit, B.」であり，「Understanding Molecular Simulation: From Algorithms to Applications」という論題の雑誌記事である。

［書誌事項の解釈］

【８】

参考文献2の資料がLibrary of Congress（アメリカ議会図書館）で所蔵されていることが確認できた場合，文献複写はNACSISのグローバルILLから申込むことができる。

［ILLシステム］

（参考文献3）
小泉智史．走行車両の時制階層型環境危険度推論システムに関する研究．東京工業大学，2000，博士論文．

【９】

参考文献3の資料の所在を調べるために，東京工業大学のOPACや機関リポジトリ，国立国会図書館サーチを検索するのは有効である。

［所蔵調査］

【10】

国立国会図書館・国立情報学研究所が提供する「博士論文書誌データベース」は，大学等に所蔵されている博士論文及び修士論文を検索することができる。

［文献探索］

【応用問題－雑誌】

（参考文献4）
野口和雄．景観法の活用と自治体のジレンマ．地方自治職員研修．2005, vol. 38, no. 5, p. 18-32.

【11】

参考文献4の複写物を入手するためNACSIS-ILLで書誌検索したところ，次の書誌レコード1がヒットした。この文献の複写依頼対象となるのは，この書誌レコードと考えてよい。

［所蔵調査］

（書誌レコード1）
TR: 月刊地方自治職員研修 / 公職研 [編] ‖ ゲッカン チホウ ジチ ショクイン ケンシュウ
VLYR: 33巻, no. 1 (2000.1)- = 通巻447号 (2000.1)-
PUB: 東京 : 公職研 , 2000-
VT: ST : 地方自治職員研修 ‖ チホウ ジチ ショクイン ケンシュウ
FID:41112900
BHNT: CF : 地方自治職員研修 / 全国自治研修協会 [編]
<AN00058766>
AL: 公職研 ‖ コウショクケン < >

【12】

利用者から，さらにこの雑誌の20巻に連載されていた記事を閲覧したいとの申し出があり，NACSIS-ILLで書誌レコード（1）の所蔵館について検索したところ20巻を所蔵している館は無かった。この調査方法は，適切である。

［所蔵調査］

【応用問題－テーマ】

「ストレス」に関する文献収集を行うことになった。

【13】

このテーマについて医学生物学的観点から研究した学術論文を調査するとき，「EMBASE」を検索するのは有効である。

［文献探索］

【14】

PubMedで検索した結果，図1の論文がヒットした。下線Aは，67が巻(Vol)，(2)が号(no)，373-83がページということを表している。

［文献探索］

[Behavioral therapy for obesity]
3. Yoshimatsu.H.
Nihon Rinsho. 2009 Feb;67(2):373-83.Japanese.
PMID: 19202915 [PubMed-Indexed for MEDLINE]
Related citations

(A)

図1

「情報サービス-文献提供」　正解と解説

【1】　正解：○ 正答率：71.1%

DOIは「Digital Object Identifier」（デジタルオブジェクト識別子）の略で，問題文にあるとおり，インターネット上にある論文や図書，図表等を識別するために与えられるユニークな番号です。この番号が付与されることにより，一論文，図書の一部分や，任意のページの図表などを個別に識別できるようになります。また，その場所を示すURLが変更された場合も，DOIによって恒久的なアクセスが可能となります。

【2】　正解：×　正答率：58.8%

SPARC JAPANはデータベースの名称ではなく，国際学術情報流通基盤整備事業のことです。この事業の主な目的は，日本の学協会等が刊行する学術雑誌の電子ジャーナル発信を支援・強化することとされています。

国立情報学研究所のサイト内に専用ページがありますので，SPARC JAPANの詳細についてはこのページをご覧ください。http://www.nii.ac.jp/sparc/　[アクセス2013.1.31]

【3】　正解：○　正答率：75.3%

NACSIS-ILLの書誌検索は総合目録データベースの書誌を検索することであり，NACSIS-CATと同じ検索ルールです。NACSIS-CAT/ILLは全文検索ではなくインデクス検索であり，正規化などいくつかのルールにより検索用インデクスが作成されています。このうち，漢字統合インデクスにより「學」は「学」に，ひらがなはカタカナに変換されるので，「學問ノススメ」と「学問のすすめ」は同じフレーズとなりますので，検索結果も同一のものとなります。

【4】　正解：×　正答率：47.4%

まず『国書総目録』とは，古代から幕末までの日本人が著作・編集したあらゆる分野の書物について，その著者や分野に関する情報のほか，所蔵先や翻刻書名などを明示している総合目録です。1963年～1976年に岩波書店から刊行されました。その後，内容の追加・訂正が行われ，1989年～1991年にかけて刊行されたのが『補訂版　国書総目録』です。一方『古典籍総合目録』は，『国書総目録』の継承・発展を目指して構築された古典籍の総合目録です。

【5】　正解：×　正答率：87.6%

最初に，参考文献欄における記述方法については「SIST 02 参照文献の書き方」が制定されていて，それによりこの文献は図書だと分かります。SISTとは科学技術情報流通技術基準のことで，科学技術情報の流通を円滑にするために設けられた基準です。参考文献の見方が曖昧という方は，必ずこのSIST02を参照してください。（SISTはウェブ上で公開されています。

http://sti.jst.go.jp/sist/index.html [アクセス2013.1.31]）

次に，著作権法第31条の条件と照らし合わせると，複写が行える範囲は「著作物」の一部なので，この場合図書一冊が著作物ですから，図書館で複写が行える範囲は「各章の半分以下」ではなく，全体の半分以下と捉えます。

【6】　正解：×　正答率：54.6%

NACSIS-CATでは，漢字，ひらがな等のタイトルはヨミの分かち書きをもとに検索用インデクスが作成されます。この資料の場合，作成されるのは「社会」「保障」「ハンドブック」ですので，「社会保障」という語ではヒットしません。先ほどの問題にあった，ひらがな・カタカナ，漢字の処理のされ方などと共に，分かち書きによる検索用インデクスの生成についても正しく理解しておきましょう。

【7】　正解：×　正答率：88.7%

この資料は，著者が「Frenkel, D」と「Smit, B.」であり，2002年にAcademicPressから刊行された「Understanding Molecular Simulation: From Algorithms to Applications」（第2版）です。

SIST02のルールをあてはめて考えると，これは図書であり，問題文にある「・・・という論題の雑誌記事である」という箇所が誤りであることが分かります。

【8】　正解：×　正答率：35.1%

グローバルILLの取り組みにより，NACSIS-ILLを通して北米その他のGIF（グローバルILLフレームワーク）参加館に対して文献複写の依頼ができるようになっています。具体的なGIF参加館はGIFのサイトに掲載されていますが，Library of Congress（LC:アメリカ議会図書館）はこのGIF参加館ではありません。

参加館の名称を全て暗記する必要はありませんが，LCが加盟館ではないことなど，大まかな特徴は把握しておきましょう。

【9】　正解：○　正答率：94.8%

参考文献3の資料は，博士論文です。

国内の博士論文については，学位が授与された大学の図書館等と，国立国会図書館で所蔵されています。また，各大学の機関リポジトリや国立国会図書館において，デジタル化資料として公開されているケースも増えています。博士論文を探す場合は，学位授与大学と国立国会図書館の2箇所は必ず確認しましょう。

なお「学位規則」が改正され，2013年4月1日から施行されました。これにより，施行後に学位を授与された学位論文については原則インターネット上での公開が義務づけられるようになったため，今後ますます学位論文の幅広い公開が広がると考えられます。

【10】　正解：×　正答率：74.2%

「学術研究データベース・リポジトリ」の中に，国立国会図書館・国立情報学研究所による「博士論文書誌データベース」があります。これは，国内の博士論文を包括的に検索できるデータベースで，修士論文は収録対象に含まれていません。なお，国内の修士論文を包括的に検索できるデータベース等は現在のところ存在していません。

【11】　正解：○　正答率：88.7%

まず参考文献4の資料は，雑誌「地方自治職員研修」38巻5号（2005年刊行）の18～32ページに掲載された論文と考えられます。

次に書誌レコードを見ると，タイトル，その雑誌の範囲（初号・終号の情報）が記述されているVLYRから該当の書誌レコードと判断することができます。文献複写を取り寄せる際は，この雑誌の所蔵館に対して依頼を行うことになります。

【12】　正解：×　正答率：87.6%

書誌レコードの記述を見ると，「VLYR: 33巻, no. 1 (2000.1)- ...」となっており，この書誌レコードは33巻，no1からの「月刊地方自治職員研修」を対象としていることが分かります。また「BHNT: CF : 地方自治職員研修...」という記述から，変遷前誌があることも分かります。

利用者の申し出は「20巻」なので，おそらく書誌レコード1の変遷前誌であることが推測されます。そして所蔵館の確認も，その前誌のレコードの所蔵館を確認しなければなりませんので，問題文にある調査方法は適切とは言えません。

【13】　正解：○　正答率：57.7%

「EMBASE」は，医学・薬学分野の代表的な文献データベースです。あるテーマの文献を幅広く収集する場合は，各分野の代表的なデータベースをまず検索するのが適していると言え，この場合「EMBASE」の使用は有効と言えます。

各分野のデータベースについて，普段あまり利用しない分野のものもあるとは思いますが，代表的なデータベースは大まかに把握しておきましょう。

【14】　正解：○　正答率：95.9%

普段からよくPubMedを利用している方はもちろん，そうでない方も，誌名に続き，西暦，巻号やページ数のような数字が記載されていると，それが巻号であるか，ページ数であるかなどの予測はつくかと思います。とはいえ，データベースによって結果表示に違いがありますので，使い慣れていないデータベースの結果を見るときは必ずマニュアルや凡例などを確認し，正確に検索結果を読みとくようにしましょう。

カタログーの独り言

「目録フランス語の基本」（続）

前回に引き続き，フランス語資料の書誌レコードを記録する際の注意点を確認していきますが，その前に，前回の大文字使用法について一点追加しておきます。英語では「私」を表す“I”という単語は常に大文字で書きますが，フランス語の“je”は，文中では小文字で始めます。すべて大文字で表示されているタイトルなどを小文字に直す際には注意しましょう。

助数詞の略語は，premier → 1er，première → 1re，deuxième → 2e，troisième → 3e，quatrième → 4e，…です。（「1」が2種類ありますが，前者は男性名詞を修飾する形で，後者は女性名詞に掛かる形です。）

「巻」に相当する単語は“tome”です。略語は“t.”ですので，“VOL:t. 1”のように記録します。ただしNOTEフィールドの先頭に記入する際は注意が必要です。AACR2の巻末にある略語表の前書きに，NOTEの先頭には一文字の略語は使用しない（APPENDIX B.5C1），とありますので，NOTEの先頭に記入する場合は"T."ではなく“Tome”としなければなりません。（そもそもNOTEに内容を記入する場合は，AACR2によれば“Contens: t. 1. 1861-1897”などとすべきなのですが，コーディングマニュアルの例示で“NOTE:v. 1. 1861-1897”（4.2.6 CW）とあるため，“Contents”という単語を記入しないレコードが多いようです。）

「号」に相当する単語は“numero”です。略語は“no”で英語やスペイン語などと似ているのですが，フランス語の場合だけは語末にピリオドが付きません。

ちなみに，本号でも特集されているRDAでは，記述部分ではアクサンは資料中に表示されているままを記録します。資料中に表示されていなければ，無いままです。（オプションとして，アクサンを追加する方法もあります。）また略語は使用せず，これも資料中に表示されているままを記録しますので，“ED:Deuxieme edition”のように記述する事があります。一般の利用者が書誌情報と現物資料とを同定しやすいように，という配慮のようです。

最後に，フランスの図書の特徴をいくつか挙げておきます。まず，目次が巻末にある事が多いです（すべてではありません）。また，出版地が明記されていない事が多く，出版社のホームページなどで確認して補記で記入してあるレコードもあります。

出版年の表示が無くて，タイトルページの裏や向かいに著作権年のみが表示されているケースが多々あります。巻末に“dépôt légal”として年が表示されている事がありますが，これはフランス国立図書館への納本年ですので，出版年としては著作権年や印刷年を優先して記録します。

同じローマンアルファベットを使用する言語であり，似ている単語も多い英語とフランス語ですが，似ているだけにちょっと違う事が混乱の元にもなっているようです。以上述べた点に注意して，楽しくフランス語資料の書誌レコードを作成していきましょう。

IAAL事務局：K生

IAAL 事務局通信 2013

IAAL大学図書館業務 実務能力認定試験（IAAL認定試験）

【締め切り】
2013年
4月30日（火）
消印有効

2013年 5月19日（日曜日）

▶「総合目録ー図書中級」 第3回
▶「総合目録ー雑誌初級」 第6回

① 東京会場（機械振興会館）
② 大阪会場（公益社団法人　國民會館）

詳細はホームページをご確認ください。

図書初級，雑誌初級の模擬問題100題とその解説。受験の準備にそして目録の学習の教材としてお役立てください。また，認定試験合格者の評価基準としてご参照ください。

2012年版

IAAL大学図書館業務 実務能力認定試験問題集

■価格　1500円
■判型　B5判
■頁数　130ページ　■ISBN　978-4-906824-00-7

当機構のHPもしくはAmazonから。
ご購入はお早目に，在庫わずかです！

★10冊以上まとめてご注文は，一冊1400円（税込）に値引きします。送料も当機構が負担します。

RDA講習会

講　義：14：00～16：00
会　場：機械振興会館

第1回 **プロローグ：RDAとはどのようなものか？**
12月15日（土）／（追加開催）平成25年1月26日（土）終了　参加者 154名

第2回 **RDAをカタロガーの視点で読む（1）「セクション1-4 属性の記録」**
3月9日(土）終了　参加者 115名

第3回 **RDAをカタロガーの視点で読む（2）「セクション5-10 関連の記録」**
5月11日（土）

申込方法は，当機構HPをご確認ください。

広報

第6回 日本図書館協会 九州地区図書館の集い／図書館総合展フォーラム 2013 in 熊本

日　時：2013年 1月28日（月）10:00 ～ 19:30
会　場：くまもと森都心プラザ図書館 ホール及び会議室

福岡在住の会員中心にポスターセッションに参加し，認定試験及びRDA講習会の広報活動を実施しました。

【研修事業】私立大学図書館東地区部会・研修分科会

2013年度も運営・企画は，IAALが担当します。2012年度の申込は，15名でした。2012年度の研修テーマとして取り上げたものは，機関リポジトリ，危機管理，大学図書館の新たな機能をテーマとした見学ツアー（成蹊大学情報図書館，明治大学和泉図書館，東京工業大学附属図書館）企画力，大学図書館間の連携（JUSTICE），大学図書館の教育的役割です。参加者にとっては，同じ問題と共有する仲間として大学の枠を越えた情報交換・意見交換を行える，貴重で大変有意義な場でした。

＞COVER story

武蔵野大学の有明キャンパス開設に伴い新築された図書館。2012年4月オープン。図書館入口のミニ展示コーナーは，組み合わせ自在のボックスでディスプレイされています。

発行人・編集／米澤 誠　発行／NPO法人 大学図書館支援機構　〒170-0004 東京都豊島区北大塚1-19-12　コルティス大塚6F　http://www.iaal.jp/